



第31回 日本慢性期医療 学会

松山リハビリテーション病院
木戸 保秀



**第31回日本慢性期医療学会
超少子高齢化時代
と
慢性期医療
Well Beingを目指した予防と云う役割**

- ・開催日 令和5年10月19、20日**
- ・開催場所 大阪国際会議場**

第31回日本慢性期医療学会

超少子高齢化時代と慢性期医療 ～Well Beingを目指した予防という役割～



会期 2023年10月19日(木)～20日(金)

会場 大阪国際会議場

学会長 木戸 保秀 松山リハビリテーション病院 理事長

併催

第11回慢性期リハビリテーション学会

学会長:木下 祐介(光風園病院 院長)

日本介護医療院協会セミナー

会長:鈴木 龍太(鶴巻温泉病院 理事長)

地域病病連携推進機構シンポジウム

理事長:上西 紀夫(公立昭徳病院 院長)

主催:一般社団法人日本慢性期医療協会
〒162-0067 東京都新宿区東久留11-5 シェルト市ヶ谷2階
運営事務局: 第31回日本慢性期医療学会 運営事務局 日本コンベンションサービス株式会社 関西支社
〒541-0042 大阪市中央区今橋4-7 京阪神淀屋橋ビル2階
TEL:06-6221-5933 E-mail:jamcf31@convention.co.jp

<https://site2.convention.co.jp/jamcf31/>

学会長挨拶

今回、令和5年10月19、20日に大阪国際会議場で第31回日本慢性期医療学会を開催することとなりました。テーマは「超少子高齢化時代と慢性期医療～Well Beingを目指した予防と云う役割～」として、予防に対する慢性期医療の向き合い方について皆様と共に考えていきたいと思っております。

私がリハビリテーション医療に向き合い始めた頃、恩師から「リハビリテーション医療は予防についても意識すべきだ」の教えを忘れず、また当院創始者が予防医療の先駆けであったことから、いまの予防の視点は何処にあるべきか、と言う原点に立ち戻り、「予防」を企画する事といたしました。

そして、これからの時代に必要な予防医療とは少子高齢化と過疎化が進む地域の人々が安心して暮らせる社会作り「Well Being」であろうと思っております。それは地域の中だけで完結する事ではなく、IT(Information Technology)化が進む社会の様々な繋がりや在り方を模索し、その繋がり方も多様に変容していくDX(Digital Transformation)化は予防医療において大いに進めるべきではないでしょうか。

医療における予防、特に感染症、医療機関だけでなく介護福祉施設の感染症対策も今後さらに迅速かつ慎重な対応が必要となります。感染症によって閉ざされた中、スタッフ数も少ない状況で如何にパフォーマンスが発揮できるか、お互いしっかりと支えあう環境作り、そのDDX化はこれからの時代に必要不可欠となります。

感染症だけでなく栄養や食事対策も同様に重要な課題となっています。Well Beingを目指した栄養管理や食事提供について触れていきたいと思っております。

地域包括ケアシステムを完遂させるためには医療と介護、福祉間の連携は当然ですが、地域共生として様々な分野との連携や情報共有もまた同時に必要とされるものです。今回取り上げたい「医工連携」もその一つです。これらの一つ一つが互助力を高めるものであり、さらに互助力や共助による連携、情報共有によって地域の包括的パフォーマンスを向上することで患者様や、その地域のWell Beingも高めていくものと思っております。

また、昨今震災や豪雨災害だけでなくコロナ禍や東アジア問題等、様々な災害・危機が同時に多発的に起こる時代へと変わりつつあります。我々慢性期医療関係者も危機管理対策を講じる必要性があります。DXの活用は迅速な危機管理対策に不可欠なものです。

また、令和6年に医療・介護・障害のトリプル改定が行われます。その備えを整理する機会でもあります。

予防と云う役割を、①感染、②栄養、③災害の三つに大別し、それぞれのテーマを講演会、シンポジウムもしくは「パネルディスカッション」形式で行う予定です。感染症下でも皆様の積極的な参加が可能な形が準備できればと思います。

また皆様方と会場でご一緒できる事を祈願し、ご挨拶の言葉に代えさせていただきます。

第31回日本慢性期医療学会
学会長 木戸 保秀
松山リハビリテーション病院 理事長



第11回慢性期リハビリテーション学会は、第31回日本慢性期医療学会に併催することとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響で医療現場ではこれまでにない多くの経験を積んでいます。こうした中、あらゆる疾患の治療にリハビリテーションが必要である事を痛感しています。皆様にご参加

いただき活発な学会となるよう、微力ながら全力で務めさせていただきますので皆様宜しくお願い致します。

第11回慢性期リハビリテーション学会
学会長 木下 祐介
光風園病院 院長



演題募集カテゴリ		
演題	ケア・マネジメント	施設別
1 慢性期医療、介護	16 栄養マネジメント	31 介護施設
2 在宅医療、看護	17 口腔ケア	32 介護施設
3 グーミナルケア、緩和ケア	18 認知ケア	33 コミュニケーション
4 感染症	19 代誌療法、レクリエーション	34 チーム医療
5 認知症	20 身体活動機序	35 施設連携
6 地域包括ケア	21 看護・スタンケア	36 世代、家族とのつながり
7 リハビリテーション	22 医療安全・事故対策	37 スタッフ育成
8 認知リハ	23 IOT・ロボット	38 経営管理
9 外傷・虐待リハ	24 看護	39 その他
10 訪問在宅リハ	25 看護実践行動	
11 認知リハ	26 介護	
12 療養・嚥下リハ	27 医療ソーシャルワーク	
13 理学療法	28 薬理	
14 作業療法	29 栄養管理	
15 リハ全般	30 臨床検査	

プログラム(予定)	
第31回日本慢性期医療学会	
記念シンポジウム	慢性期医療から診療報酬・介護報酬の同時改定に迫る
講	医療・介護イノベーション DX化時代に求めるもの
講	女性リーダーが語る慢性期医療の未来
シンポジウム	Well Beingを目指した予防～その① 感染～ Well Beingを目指した予防～その② 栄養～ Well Beingを目指した予防～その③ 災害～
特別シンポジウム	良質なケアがなければ超高齢社会は実現しない!
第11回慢性期リハビリテーション学会	
疾患治療を効果的にするためのリハビリテーション	
日本介護医療院協会セミナー	
介護医療院の現在と好事例の紹介	
地域病病連携推進機構シンポジウム	
地域医療連携下における病病連携の現状と課題	

演題募集期間
2023年
4月10日(月)正午～6月8日(木)正午

発表方法
PCまたはポスター発表

※本学会では、PC発表よりもポスター発表の割合を高くする予定です。発表方法は学会長一任とさせていただきます。ご希望に添えない場合もございますので、予めご了承ください。
※演題発表日時は、学会長一任とさせていただきます。
※演題発表は会場での発表です。

事前参加登録期間
2023年5月15日(月)～8月31日(木)

事前参加登録	参加登録費 14,000円
	消費税 1,400円
	計 15,400円/名
当日参加登録	参加登録費 20,000円
	消費税 2,000円
	計 22,000円/名

第31回日本慢性期医療学会
運営事務局:
日本コンベンションサービス株式会社
関西支社
〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7
京阪神淀屋橋ビル2F
TEL:06-6221-5933
E-mail:jamcf31@convention.co.jp

主催:
日本慢性期医療協会
〒162-0067 東京都新宿区東久留11-5
シェルト市ヶ谷2階

はじめに

平成28年2月27、28日に第3回慢性期リハビリテーション学会で、「地域に生きる～徹底的な**予防**リハビリテーションに取り組む～」をテーマに神戸で開催させて頂きました。

慢性期医療～ Well Beingを目指した**予防**と云う役割～」として、再度予防に対する慢性期医療の向き合い方について皆様方と共に考えていきたいと思えます。

また、この度は

① 第11回日本慢性期リハビリテーション学会 学会長 木下 祐介先生

② 日本介護医療院協会セミナー 会長 鈴木隆太先生

③ 地域病病連携推進機構フォーラム 理事長 上西紀夫先生

と、同時併催になります

古き時代、アナログ時代はモノやヒトも変動の時代でした。今から七十年前、終戦直後、当院開設者の桑原先生は馬で往診し、栄養改善にと村に無償で野菜を提供し、学校給食も開始しました。地域で村でどこか寄り添い、支え合う時代でもありました。時代はデジタル時代となり、同時にそれは個を尊重する時代への変換であったと思います。働き方改革やLGBT問題等が正しく個を尊重する象徴とも言えますが、一方で少子高齢化問題は、地域包括ケアシステムのように地域というグループでの活動が求められます。個と集団、どう進めるかの時代に重なるように新型コロナウイルス感染症が蔓延しました。リハビリテーションにはチームでの活動が必要ですが、新型コロナウイルスはその大きな弊害となりました。ただその渦中でも高次脳機能障害患者の中ではオンライン診療やチャット機能を使ったグループ活動が盛んに行われていました。新型コロナウイルスと共に医療の中でもDX化が大きく進歩し始めたと感じた一幕でした。



Well Beingを目指した 予防と云う役割 3つのシンポジウム

- ① 感染・・・世界を震撼させたCovid-19にどう立ち向かったのか、そしてこれから感染症に対してWell Beingを目指すために我々慢性期医療はどうあるべきなのか
- ② 栄養・・・食事と排泄が一体となってWell Beingを目指したパフォーマンス向上対策について予防の視点から
- ③ 災害・・・震災や豪雨災害、さらに戦争まで、自助と共助、地域の在り方と互助の必要性について

演者:

大嶋 玲子

介護老人保健施設大誠苑 看護
マネジャー

富家 隆樹

富家病院 理事長

山本 尚子

国際医療福祉大学 特任教授、前
WHO事務局長補

① 感染・・・世界を震撼させたCovid-19にどう立

演者:

武久 洋三

博愛記念病院 理事長

利光 久美子

愛媛大学医学部附属病院栄養部 性期
部長

西尾 俊治

南高井病院 院長

② 栄養・・・食事と排泄が一体となってWell

演者:

中村 正善

株式会社JINRIKI 代表取締役
社長 策に

栗原 正紀

長崎リハビリテーション病院 理事
長

安藤 正夫

金上病院 理事長

木戸 保秀

松山リハビリテーション病院 理事
長 性で、
要性に



医療・介護イノベーション DX化時代に求めるもの

地域包括ケアシステムと地域共生・・・地域包括ケアシステムの振り返りと医療・介護にこれから望まれるDX化を中心とした改革を模索し、地域の包括的パフォーマンスを向上することで患者様個々や、その地域のWell Beingも高めていくものと思います。

特別シンポジウム「良質なケアがなければ超高齢社会は乗り切れない！」

演者： 田中 滋 埼玉県立大学理事長
及川 ゆりこ 日本介護福祉士会 会長
小山 さおり 千里リハビリテーション病院 介護課課長
田中 志子 内田病院 理事長

セッション
めるもの

生・・・地域包括ケアシステ

獲にこれから望まれるDX化を中心と
の包括的パフォーマンスを向上す
その地域のWell Beingも高めていく

ものも思います。

鼎談「女性リーダーが語る慢性期医療の未来」

演者： 橋本 康子 日本慢性期医療協会 会長
天野 純子 アマリリハビリテーション病院 理事長
室谷 ゆかり アルペンリハビリテーション病院 理事長

また、令和6年に医療・介護・障害のトリプル改定
が行われます。その備え企画も外せません！

皆様と
会場で直接お会いできることを
心より祈願しております

